

企画ワークショップ④ 第2部

ワークショップと学生ジョブコーチに関する研究報告

主発表者：中鹿直樹（立命館大学）

連名発表者：荒木寿友（立命館大学）

「ワークショップの新しい類型化の試み」 荒木寿友（立命館大学）

本発表の目的は、ワークショップをその構造から類型化を試みることである。

中野民夫（2001）は、ワークショップをその内容面から7つ（たとえば、まちづくり系、アート系など）に分類している。しかし、同じ「まちづくり系」のワークショップであっても、参加者や目的などによって、その内実は大きく異なる。そこで、本発表では、カリキュラム開発の知見からは、羅生門的アプローチと工学的アプローチを援用し、教育方法の知見からは、問題解決学習を参考にしながら、ワークショップを3つに類型化する。これにより、ワークショップの目的に応じたプログラム構成が可能になり、より広い場面でワークショップを用いることができるようになることを示す。

「学生ジョブコーチにおける事例報告」 中鹿直樹（立命館大学）

立命館大学では、学生ジョブコーチによる障害者の就労支援をおこなう実践・教育・研究に取り組んでいる。学生ジョブコーチは当初は、支援対象者が職場の職務に適応することを支援するという、まさにジョブコーチの役割を果たしていた。次第に職務への適応支援に加えて、セルフ・マネジメントの支援へと展開していった。近年では大学内に模擬喫茶店舗を設けて、場面自体は職務ではあるが、仕事をする中で対象者が自らの「できる」を拡大することの支援に展開している。今回の報告では学生ジョブコーチの取り組みについて、荒木（2015）の提唱するワークショップの3類型を手掛かりに、捉え直す作業を行う。